

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372401135		
法人名	有限会社 ふれあい松川		
事業所名	なごみの園・菊水		
所在地	玉名郡和水町長小田334番地		
自己評価作成日	平成22年1月	評価結果市町村受理日	平成22年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3丁目13番12-205		
訪問調査日	平成22年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小学校の校庭に隣接しているため、運動会などはホームのベランダより見学することが出来、子供たちのにぎやかな声を見聞きし楽しませている。さらに、小学生の訪問も多く交流が活発である。また、田園風景がすばらしく、散歩をするのに車の危険性もなく気候の良い日はいつでも外に出て行き近隣の方との会話を楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームから臨む山々や田畑、隣接した小学校から聞こえる児童の声や始・終業を知らせる音は入居者にまさに「なごみ」を与えている。開設からの年月を感じさせず手入れの行き届いたホームは居心地の良さに繋がり入居者に落ち着いた空間を提供している。季節を感じながら近隣を散策し収穫した菜の花・つくしを食材にしたり、庭で釜焚きご飯を楽しんだり、今では珍しい時代を感じる茶碗や皿を職員が持ち寄るなど入居者にとって懐かしい支援を全職員で実践している。運営推進会議へは、事務責任者が案内状を一軒一軒挨拶を兼ね自宅を訪問するという熱意ある対応で、会議への関心も高く地域から多数の参加があり運営に反映されている。運営者の高齢者介護への熱い思いから併設有料ホームがこの春開設され今後はデイサービスと併せそれぞれの特徴を生かしたサービスが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に各自確認し定例会時には、唱和をして理念に基づいて日々の支援をしている。	地域との交流を盛り込んだ理念を台所や職員更衣室など日々目にする場所に掲示し、ケアの規範として毎月のミーティングで唱和するとともに管理者は入居者との関わりを急がずゆっくり対応するよう指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の神社清掃などを通して交流を深め、散歩や買物時に挨拶・会話を楽しんでいる。また、近隣の方より鉢植えの花を観賞用に持って来られ、その方自身で毎日水遣りに来られている。	開所時より続いている隣接小学校との交流は入居者の楽しみとなっている。運動場よりこだまする子供の声に入居者の顔はほころび相乗効果をもたらしている。地元神社の清掃活動への参加やかぐら見物など地域行事の予定表を見ながら入居者とともに参加できる催し物に積極的に出かけている。ホーム主催の秋祭りも地域に浸透し楽しいイベントになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があれば応じている、また、中学生の体験学習の受入れは毎年行っているが、当事業所より積極的に地域に向けての活動はしていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回(年6回)開催。ご家族様、行政、地域の役員様に御参加頂き日頃の活動や取り組み等を報告し、また、参加者の方々からの意見を頂き、提案事例は定例会にて検討して方策を見出すように努めています。	定例化した運営推進会議には行政をはじめ、事務責任者の努力により地域から多くの参加が得られている。各参加者より活動報告(独居の方への支援など)を受け情報交換を行っている。今後は老人会の会合への場所提供も検討し交流に繋がりたいとしている。	家族の参加も多く協力が得られているが、参加されなかった家族への報告手段を職員で検討し共有に繋がるのが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議においては毎回出席していたり、そのほか行政サイドでの相談など担当の方とは頻りにコミュニケーションをとっております。	行政から運営推進会議への参加や消防訓練時の立ち会いなどの協力があり、提出書類の相談やスプリンクラー設置の打ち合わせなど日常的にコミュニケーションにより友好的な関係が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会には積極的に参加し、ホーム内での勉強会を通して職員の共有認識の向上を図っている。しかし時には言葉遣いに対して抑圧感を抱かせていないか考えさせられることもある。	外部研修に積極的に参加し研修資料をもとに、ミーティングを行い共有に努めている。職員は拘束による弊害を十分認識し玄関の施錠を含め一切の拘束も行われていないが、入居者に発した言葉が行動の抑制や威圧感に繋がっていないか日々振り返りながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止については勉強会などを通して全職員理解を深め防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少ないが必要とされる利用者様が居られる時はアドバイスをを行い、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書に沿って説明を行い、不安や疑問点があれば再度十分納得して頂くまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や2ヶ月に一度の運営推進会議への出席で意見・要望を聞く機会を設け、そこでの意見要望は職員で話し合い、今後の方針を決めそれに応えている。	運営推進会議や面会時を家族の意見や要望を聞く機会としている。玄関先に意見箱を設置したり公的相談機関については掲示や入居時に説明を行っている。本人、家族の希望を取り入れてカラオケ大会を実施したり、上履き使用の是非について意見を求められ使用の必要性を一緒に話し合うなどケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにて意見や提案を検討し、個人相談にはその都度面接し対応している。	管理者は職員の相談や意見に耳を傾け細やかに応じている。季節感を出すためにリビングの飾りを一緒に工夫したり、入居者が寛ぐソファの購入を運営者に提案するなど実践に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者及び各部署の責任者による運営会議をはじめ毎日1名各部署それぞれの職員と個別に面談を実施している。また、年末には職員個人の実績を考慮して功労者を表彰している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県認知症介護研修に22年度は1名申し込み中。その他各研修会にも可能な限り参加出来るようにしています。毎月1回は勉強会を計画していく予定です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム連絡協議会の勉強会及び交流会に参加しています。また、訪問や談話を通して情報をもらいながらサービスの向上に少しながらもつなげています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と対面にて受容の姿勢で傾聴し、また、本人の表情やしぐさ等にも配慮し気持ちが出し易い様に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に来園しホーム内を見学してもらい、不安なこと、要望などを傾聴し安心していただけるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聞くことで何が必要で困っているかを知り、本人に合ったサービスが出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが協働しながら人生の先輩の言葉を聞き和やかな雰囲気の中楽しい生活が出来るような関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日常での状態の報告を毎月郵送して、その家族と相談しながら一緒に支えていく協力関係が築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人などの訪問を積極的に受け入れているが最近では訪問が少なくなっている。	入居者の精神的安定を図るため家族と協力して外泊を支援したり、墓参りや法事などの送迎を行っている。外出先や隣接デイサービスで知り合いの利用者と会話を楽しむなど入居者のこれまでの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ある程度はご本人たちの行動を尊重していますが、孤立しない様にみんなで過ごす時間をつくり楽しい生活が出来るように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移転されたホームなどを訪問したり、関係者への情報の提供などにて、ご利用後のお付き合いができるように心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向に添うように努めているが、十分満足できる様には添えない面がある場合がある。困難な場合は家族からの情報をもらい本人との話し合いを交えて最良の方法を検討し本人本位のケアを目指している。	入居時のアセスメントを参考にしながら職員の寄り添いや、職員間の気付きを確認しながらその時のその方の希望・要望に応じた支援に努めている。困難な場合は家族の来訪時や電話などにより思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族をはじめ関係者の方々より生活歴の把握に努めているが、情報が少ない方もいらっしゃる。より良いサービスができるように努めます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の日誌に時間の経過と共に健康面、生活面の変化を記録し全スタッフで情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ同士ではミーティングの場で話し合い、意見交換やモニタリングをしているが家族を交えては話し合いが少ないところもある。	本人・家族・職員の意向をプラン作成に反映し半年毎の見直しと随時の追加プランを立てている。歌が好きな入居者に歌う機会を作してほしいという家族からの要望に、デイサービスとの合同カラオケや好きな音楽を流すなど新たなプランを取り入れている。管理者は今後も家族との話し合いを大切にしたいとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的状況及び、生活面の状況を記録している。勤務開始前に確認するように義務付けている。しかし日々の記録を活かしきれない時がある。見直しをし実践されるよう努めます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急変時の病院受診、また、本人様が家族との面会を希望される場合にホーム内で一緒に食事をして頂いたりして一緒に過ごしてもらおう等、その時のニーズに対して柔軟な対応が出来るように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のなかで、地域包括支援センターの職員参加にて情報交換ができ協力関係を保ち、本人が心豊かに生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望によりかかりつけ医を選定し定期的な往診と電話による指示を24時間対応で行っています。受診や通院は基本的には家族同行になっているが、不可能なときには職員が代行するようにしている。	入居者のこれまでのかかりつけ医の受診を支援している。定期的な往診や協力医療機関の24時間対応・週1回の訪問看護による健康管理は入居者・家族の安心に繋がっている。受診は基本的に家族対応としているがホームでも柔軟に対応し、情報を共有することで健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護サービスと医療連携を取っており日常的な健康管理をホーム内看護師と相談を行いながら、また、いろいろなアドバイスをもらい医療的支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病室を訪問し本人との面会をもち、安心して治療に専念されるようにしている。また、状態を把握し早期退院できるように関係者との情報交換はしているが密接な連携は取れていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を聴き本人の状況に応じて方向性をこまめに話し合い体制は出来ていますが、現時点では対象者もいなく取り組んでいない。	看取り指針を作成し重度化や終末期の対応について、ホームとしてできる取組みを説明している。今後も本人や家族の思いを十分に受け止め、必要に応じた話し合いを行ないたいとしている。	重度化や終末期については全家族との希望や思いを話し合い、事業所としてできる取組みを職員間でも共有し、メンタル面にも配慮した研修会の実施も必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修やミーティングなどで情報は知っているが、すべての職員が必要性感じながらも実践力は身に付けていないのが現状です。定期的に訓練をするように努めます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防・避難訓練を実施しています。消防署のご協力をはじめ消防団・行政関係、さらに近隣の方々のご協力のもとに行っております。	昼・夜を想定した訓練を年2回消防署・近隣者をはじめ多くの関係者の参加を得て実施している。訓練は入居者を毛布にくるんでの避難など有意義な訓練であることが記録からも窺える。	併設有料老人ホームの開設に伴い、今後災害対策の強化や、火災訓練と併せ地震や風水害に対する訓練の実施にも期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには配慮しています。言葉かけや対応については常にミーティングなどで再確認し心掛けているが時として馴れ合いを感じる事もある。	入居者の尊厳に配慮した言葉かけや対応について、ミーティングや勉強会を通し共有している。呼称については同姓入居者が多いこともあり下の名前を使用することを確認している。食事中こぼされる心配のある入居者へもエプロンではなく、ひざかけタオルや見守りにより支援するなどプライバシーに配慮した対応である。重要書類は事務所で管理し個人情報保護に努めている。	入居者の生活歴や性格など個々に応じ方も交えながらの支援であるが、慣れ合いの言葉かけや対応になっていないか、職員間で気付きを述べあう機会を持つことでより良い支援に繋がれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情やしぐさに気がけながら、関わりの中で希望を表出できるような雰囲気作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを大切にし希望に添って支援していますが時としてホームの都合で時間帯を変えて入浴して頂くなどお願いすることもあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で好みの服を選んで着衣してもらっている。また、朝の洗面後鏡の前で髪を梳かされて居たり他者の髪を梳かしたりしておしゃれに心配りされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前にメニューを決めて料理はしていますが、近隣の方やご家族様より野菜などを頂いたり、その日の話題の中で食べたいものが出た場合などメニューを変更し一緒に調理したりしている。	職員の作成した献立に、差し入れ食材や入居者の要望を取り入れ臨機応変に対応している。入居者も買い出しに参加し台拭きや茶碗拭きを一緒に行い、ゆっくりと会話を楽しみながら食事を摂っている。おやつや食事にあわせてテーブルの配置を変えたり、入居者にとって懐かし昭和時代の茶碗・皿の使用、庭で新米の釜焚き、ホーム藤棚でのランチなど多くの楽しい食事支援が実施されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や形態はその人に合わせ、1日の食事摂取量はチェック表を活用して把握しています。水分については必要時にチェック表を使用して不足のないように気がかけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の状態に応じて対応しています。自分で出来る方は声かけ見守りをし、義歯の方は定期的に洗浄剤にて清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間はトイレ誘導にて全員トイレにて排出出来ていられるが、必要に応じて紙パンツ・パット等を使用されている。夜間オムツ使用中の方をはずす方向でP-トイレの使用を支援している。	入居者それぞれの担当者が中心に個々の排泄パターンにそったトイレでの排泄支援に努めることで自立に繋げている。申し送りやミーティングでは、他の職員との情報交換に努め、担当職員不在や夜間対応もスムーズな支援が確立している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分補給への配慮や運動の働きかけは常時行っていますが、必要に応じて薬を服用されている。入居者様に対しては無理なく排便できるように対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に出来るだけ応じるようにしていますが、充分とは言えず、また、時間帯はご本人に了解を得ていますがホームの都合などで変更することもあります。入浴を楽しみされている利用者様にはゆっくりとして頂き見守りしながら支援している。	毎日準備を行い基本的には一日おきに午後からの入浴を支援している。夜間入浴を希望される方は現在はおられない。拒否が強い方に対しても、無理強いをせず家族の来訪時に協力を得たり、病状に応じた入浴方法の研修を実施するなど個々に応じ支援している。季節風呂(職員の持ち寄った菖蒲・ゆずなど)や浴室の環境が清潔に保たれていることも楽しい入浴に繋がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や体調に合わせて休息できるようにしています。眠剤を服用されている方には睡眠状態を把握し医師と相談しながら心地良い睡眠が出来るようにしえんしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホーム内の看護師が責任を持って確認及び管理しているためか副作用については確認するようにしているが全スタッフが理解しているとはいえない、しかし症状の変化の確認は全スタッフが分かるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節にて白菜漬け、梅干や干し柿作り、野菜作りと今までやってこられた力を活かしている。気分転換としては季節ごとの花見学や買い物外出などで楽しみを支援しています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望によっては出来ませんが気候や体調を見ながら、ドライブや散歩、買い物をしたりして外出を多く持つように支援しています。	運営者をはじめ職員の「天候のよい日はできるだけ外出を」の思いから、敷地内や近隣の散歩を楽しんでいる。季節の花見ドライブ(桜・菖蒲・ふじ・紫陽花・はす・バラ)など楽しい外出支援の取り組みがホーム便りからも窺える。物産館など地域の協力を得て外食支援も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援して	ご家族様より金銭をお預かりしスタッフで管理したり、ご本人が少額所持されている方もいらっしゃいます。買い物外出時に自分で支払などをして頂くように支援しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に添って対応しています。手紙についても制限はしていませんが自分で書かれることはあまり好まれないようです。しかし、年賀状は自ら一筆書かれております。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間すべてに不快がないとは言えないが混乱を招く刺激はないように配慮している。また、花を生けたり季節の絵などを描き壁に貼ったりして季節を感じる工夫をしています。	手入れの行き届いたホームは採光もよく、換気や温度調整にも充分配慮し、玄関やリビング・洗面所などに近隣者からの差し入れられた季節の花や植物・置物が飾られ心む空間である。段上がりの畳の間やソファは、入居者同士でゲームや職員と談笑したり寛げる空間である。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	最近では自分の座る場所が固定されている方もいらっしゃいますが気の合った同士が楽しく過ごせるような居場所作りにつとめています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に馴染みの物があれば持って来て頂くようお願いしています。それぞれが自分の居室として愛着を持ち居心地良く過ごせるように努めています。	田園風景や小学校舎をのぞむゆりの居室には、家族の協力により馴染みの家具や家族の写真・好みのカレンダーなどが持ち込まれている。個々の身体機能に応じ家具の配置を検討したり、小まめな換気や日々の掃除により清潔に保たれ入居者も安心して過ごされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現設備の中で安全かつ見守りをしながら自立した生活ができる様に支援している。		